

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 30 January 2004

**背景:** 頸動脈パッチ血管形成術を行う外科医には、自己静脈由来パッチの適用が望ましいとする者と、合成素材から製造されたパッチの適用が望ましいとする者がいる。

**目的:** 本レビューの目的は、頸動脈パッチ血管形成術に用いられる様々な素材の安全性と有効性について評価することであった。

**検索戦略:** Cochrane Stroke Group trials register (最終検索2002年11月)を検索した。また、Cochrane Controlled Trials Register (The Cochrane Library、2001年4版)、MEDLINE (1966年～2001年12月)、EMBASE (1980年～2001年12月)、Index to Scientific and Technical Proceedings (1980年～2001年)を検索した。8種類のジャーナルと5つの会議録をハンドサーチした。参考文献リストを点検するとともに専門分野の研究者と連絡をとり、その他の既報の試験と未発表試験を抽出した。

**選択基準:** 頸動脈内膜摘除において1種類の頸動脈パッチとその他の頸動脈パッチが比較されたランダム化試験と準ランダム化試験。

**データ収集分析:** 2名のレビューアが適格性および試験の質を独立に評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 本レビューの既報版には、326例の手術が含まれた3件の試験が登録されている。その後5件の試験が報告されたため、手術数が1480例に増加することとなった。1995年前に行われた試験では、いずれも静脈縫合とPTFE縫合が比較されていたが、後期の試験のうち3件では静脈とDacronグラフト、1件ではDacronとPTFEが比較されていた。2件の試験では割付けが適正にコンシールメントされておらず、1件の試験では患者の追跡が退院時までしか行われていなかった。6件の試験では、ITT解析が可能であった。2件を除くいずれの試験でも患者を2回ランダム化することが可能であり、各頸動脈が異なる治療群に割付けられていた。手術時の事象が少数であったため、周術期の脳卒中、死亡、動脈合併症に静脈縫合とDacronパッチにて何らかの差があるか否かを判定することはできなかった。DacronパッチとPTFEパッチが比較された1件の試験では、DacronにおいてPTFEと比較して、脳卒中と一過性脳虚血発作との組み合わせで見た有意なリスク( $p=0.03$ )および30日目での再狭窄の有意なリスク( $p=0.01$ )、周術期脳卒中のわずかに有意なリスク( $p=0.06$ )、周術期頸動脈血栓症リスクの非有意な増加( $p=0.1$ )が認められた。5件の試験では、患者の追跡が30日を超えて実施されていた。1年を超える追跡期間中には、脳卒中、死亡、動脈再狭窄のリスクに2種類のパッチ間で差が認められなかった。しかし、事象数は少なかった。4件の試験全体では776名の患者に15例の事象が認められたことから、合成パッチの方が静脈パッチよりも仮性動脈瘤が有意に少なかったが(オッズ比[OR]0.09、95%信頼区間[CI]0.02～0.49)、該当するイベント数は少なく、本所見の臨床的意義は不明である。

**レビューア見解:** 異なる種類のパッチ素材間での差はごくわずかと考えられる。従って、何らかの差が実際に存在するののか否かについて確証を得るためには、現在入手可能なデータを上回るデータが必要とされる。PTFEパッチは、周術期の脳卒中発生率と再狭窄の観点から、コラーゲン含浸Dacronグラフトと比較して優れているとのエビデンスも得られている。しかし、このエビデンスは1件の小規模試験で得られたデータに基づくものであり、強固な結論を得るには異なる種類の合成グラフトを比較する試験を更に行う必要がある。仮性動脈瘤形成の頻度は、静脈パッチ使用後の方が合成パッチ使用後よりも高いようである。

**Citation:** Bond R, Rerkasem K, Naylor R, Rothwell PM. Patches of different types for carotid patch angioplasty. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2004, Issue 2. Art. No.: CD000071. DOI: 10.1002/14651858.CD000071.pub2.

**Clib issue No.:** 2005 issue 4

**CRG名:** Stroke

**\* ご注意 :** この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。